

総合計画の横断的取組について

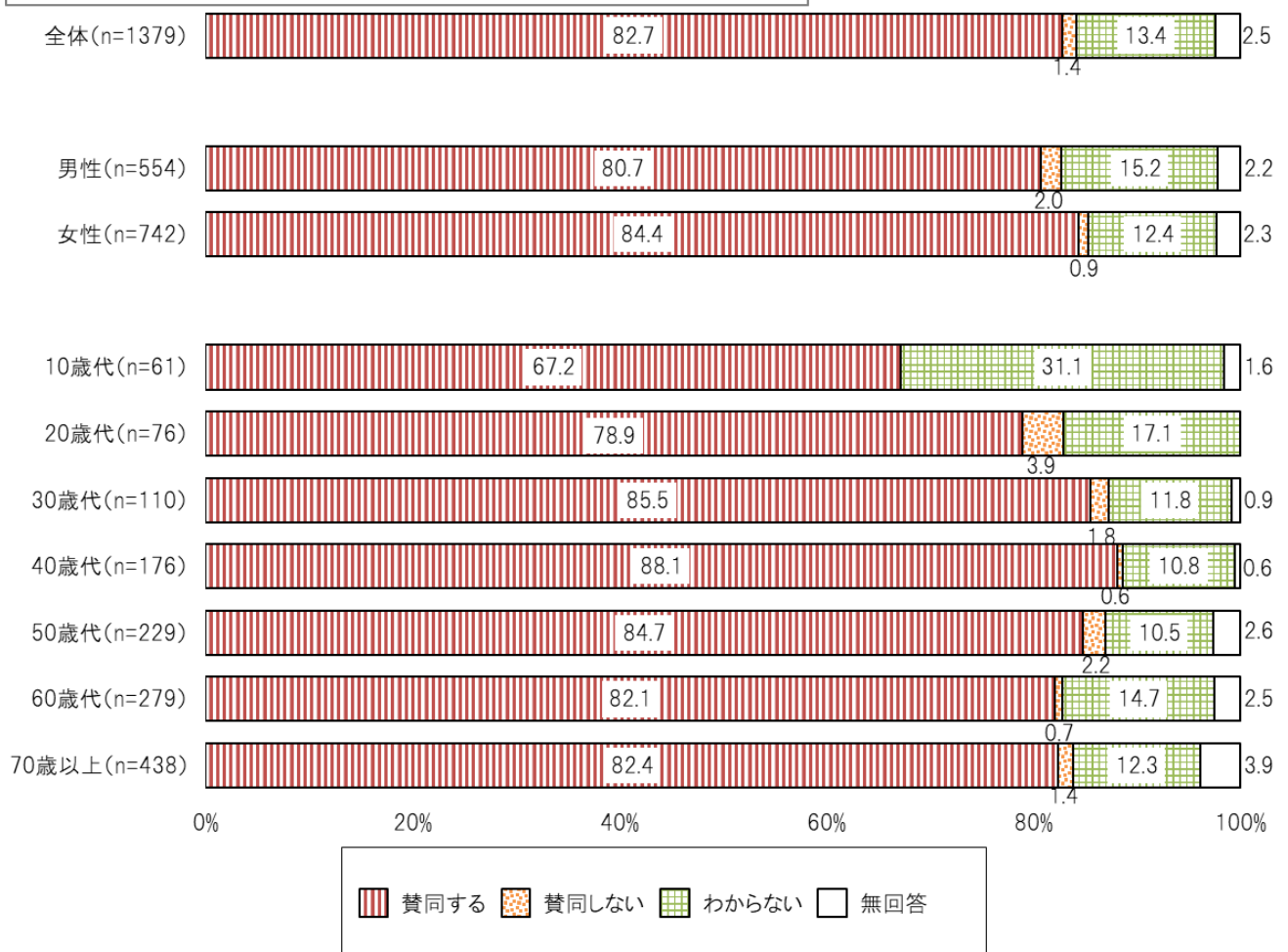
問 14 少子高齢化や若者の流出など、さまざまな課題解決をめざし、「若者定住」「高齢者福祉」「公民連携」について、重点的に取り組んでいこうと考えています。この考えに賛同しますか。（○は1つだけ）

「賛同する」が 82.7%と最も高く、次いで「わからない」が 13.4%となっている。

性別にみると、「賛同する」の割合は、男性が 80.7%、女性が 84.4%で女性の方が男性よりも 3.7 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「賛同する」の割合は 40 歳代で最も高く 88.1%となっており、10 歳代で 67.2%と最も低くなっている。

問14「若者定住」「高齢者福祉」「公民連携」の取り組みに賛同しますか



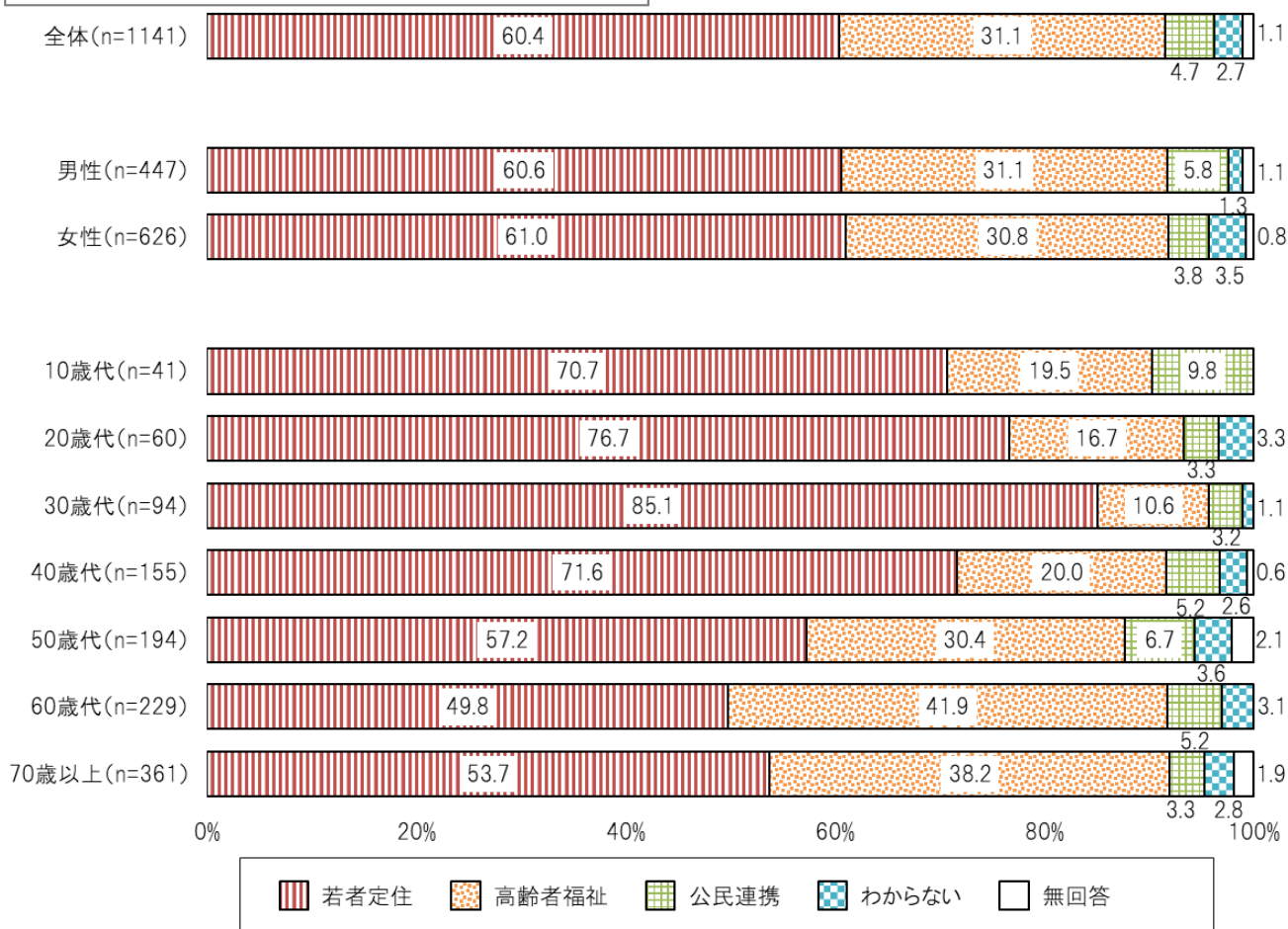
問15 問14で「1. 賛同する」と答えた方におきします。「若者定住」「高齢者福祉」「公民連携」の中で、特に重点を置く必要があると思う取組はどれですか。（○は1つだけ）

「若者定住」が60.4%と最も高く、次いで「高齢者福祉」が31.1%、「公民連携」が4.7%となっている。

性別にみると、「若者定住」の割合は、男性が60.6%、女性が61.0%で女性の方が男性よりも0.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「若者定住」の割合は30歳代で最も高く85.1%となっており、60歳代で49.8%と最も低くなっている。

問15 特に重点を置く必要があると思う取組はどれですか



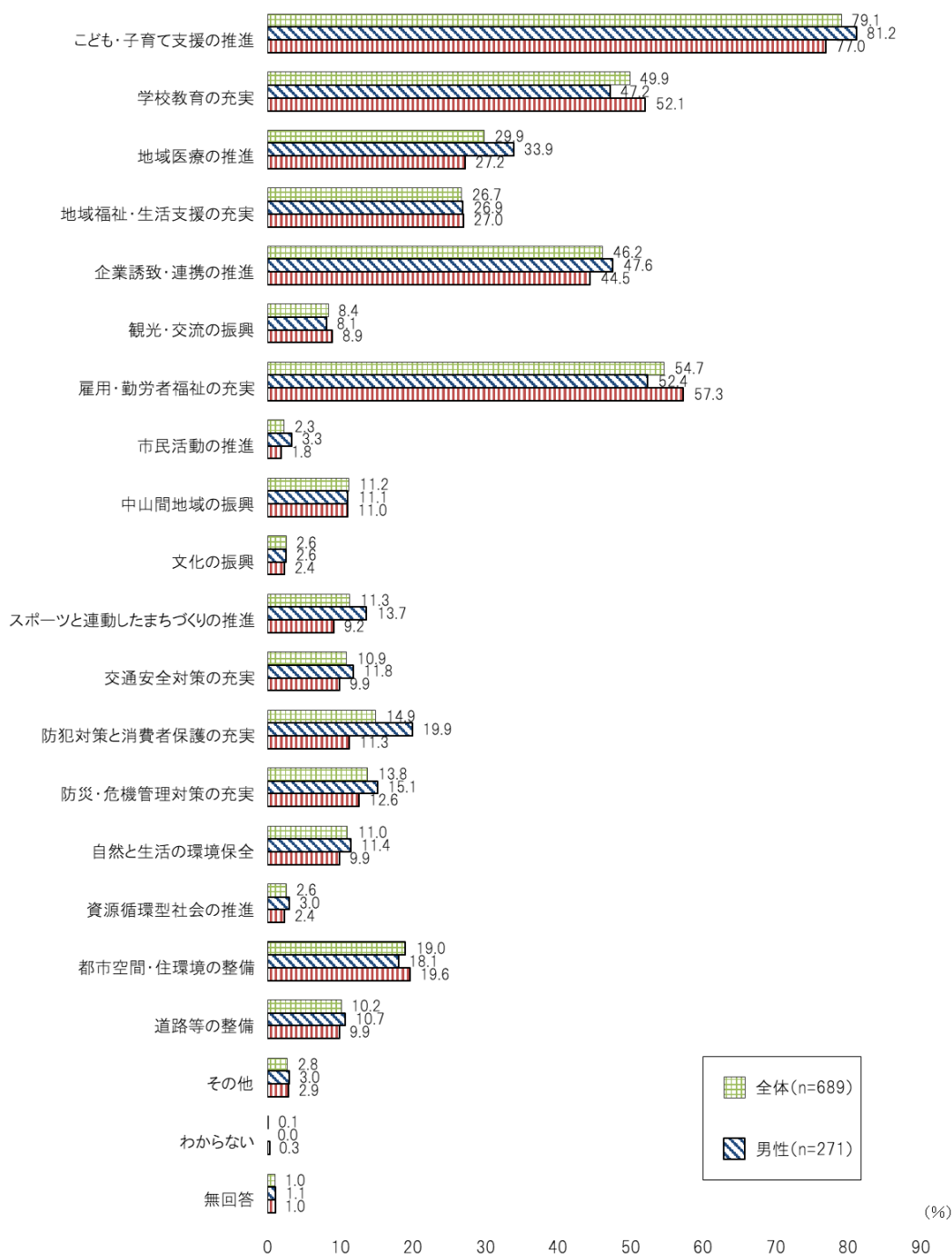
問 16 問 15 で「1.若者定住」と答えた方におききします。「若者定住」の取組を進めていくには、どのような対策が必要だと思いますか。（〇は5つまで）

「こども・子育て支援の推進」が79.1%と最も高く、次いで「雇用・勤労者福祉の充実」54.7%、「学校教育の充実」が49.9%となっている。

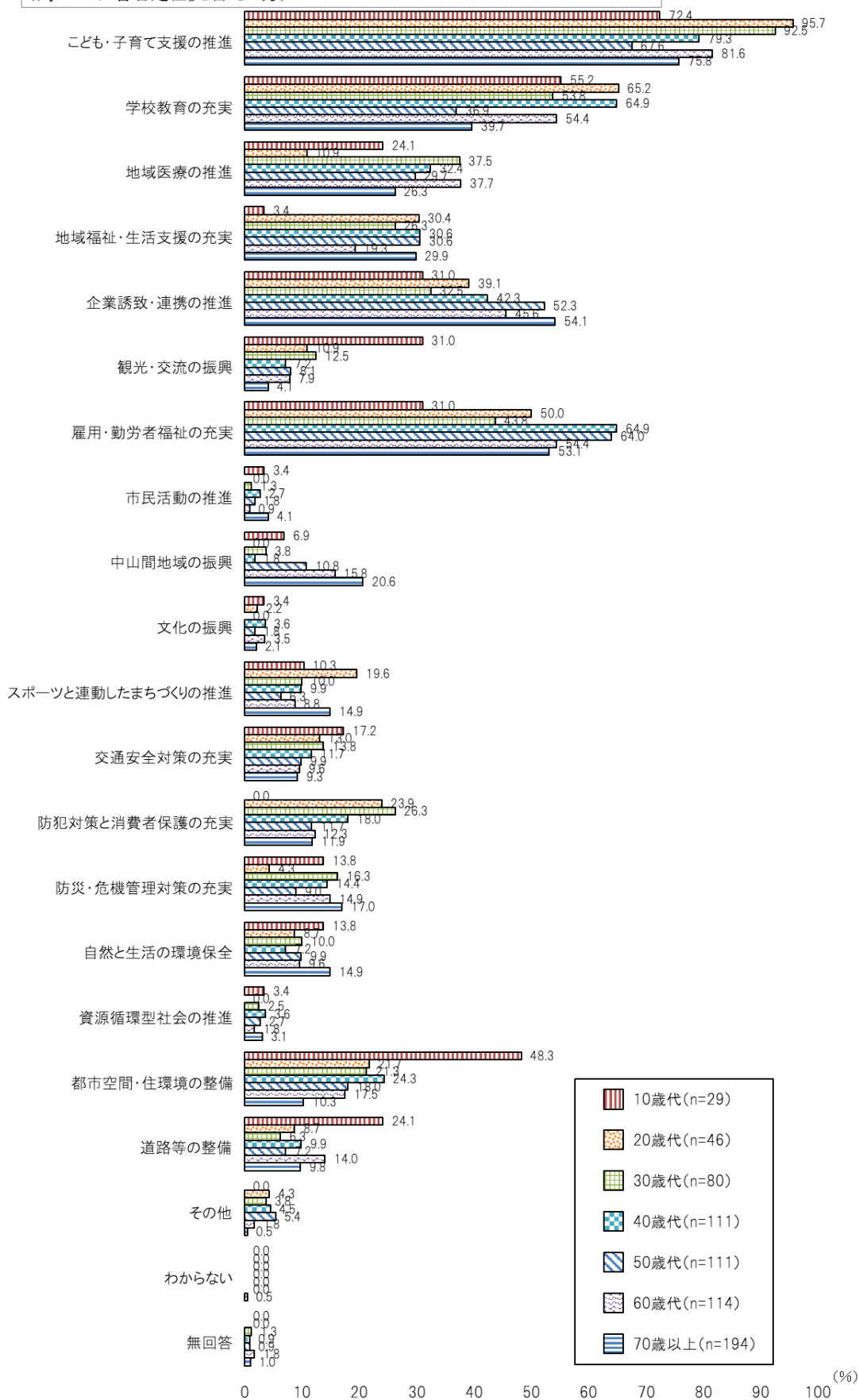
性別にみると、「こども・子育て支援の推進」の割合は、男性が81.2%、女性が77.0%で男性の方が女性よりも4.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、「こども・子育て支援の推進」の割合は20歳代で最も高く95.7%となっており、50歳代で67.6%と最も低くなっている。

問16 「若者定住」の取組を進めていくには、どのような対策が必要だと思いますか。
(問 15 で「若者定住」と答えた方)



問16 「若者定住」の取組を進めていくには、どのような対策が必要だと思いますか。
(問 15 で「若者定住」と答えた方)



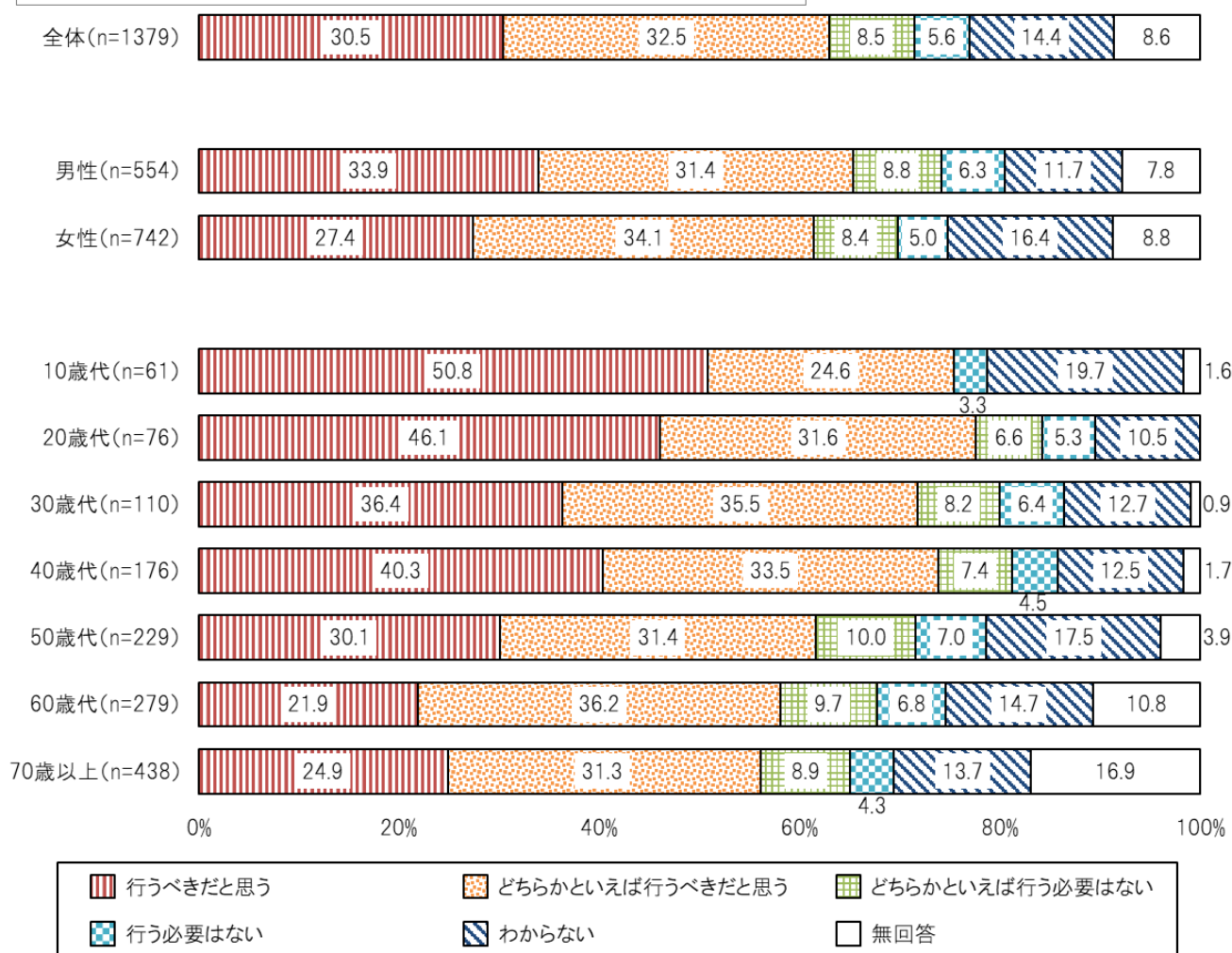
問 17 若者定住の促進の1つとして、UIターンなどで就職した方を対象に、経済的負担を軽減し、奨学金返済の一部補助を行っている自治体が増えています。一方で、高等教育機関に進学すること自体が個人の選択であるため、自分で責任を負うべきとの意見もあります。松阪市で、このような支援を行っていくべきだと思いますか。
(○は1つだけ)

「どちらかといえば行うべきだと思う」が32.5%と最も高く、次いで「行うべきだと思う」30.5%、「わからない」が14.4%となっている。

性別にみると、「行うべきだと思う」「どちらかといえば行うべきだと思う」の合計の割合は、男性が65.3%、女性が61.5%で男性の方が女性よりも3.8ポイント高くなっている。

年代別にみると、「行うべきだと思う」「どちらかといえば行うべきだと思う」の合計の割合は20歳代で最も高く77.7%となっており、70歳以上で56.2%と最も低くなっている。

問17 若者定住の促進の1つとして、支援を行っていくべきだと思いますか



問 18 多くの自治体で出会いの場を提供する婚活支援事業が行われていますが、一方では行政が個人の生き方に介入すべきでないという意見もあります。あなたは、どのように考えますか。（○は1つだけ）

「どちらかといえば取り組むべきだと思う」が31.6%と最も高く、次いで「わからない」が20.1%、「取り組むべきだと思う」18.7%となっている。

性別にみると、「取り組むべきだと思う」「どちらかといえば取り組むべきだと思う」の合計の割合は、男性が51.5%、女性が49.0%で男性の方が女性よりも2.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「取り組むべきだと思う」「どちらかといえば取り組むべきだと思う」の合計の割合は30歳代で最も高く60.9%となっており、20歳代で43.4%と最も低くなっている。

問18 多くの自治体で出会いの場を提供する婚活支援事業が行われていますが、どのように考えますか

